

登山月報

JMSCA

登山月報 第638号 令和4年5月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可 (毎月一回15日発行)



クーンブ氷河のアイス・フォール

8月11日 みんなで山を考えよう!

祝「山の日」
 全国「山の日」協議会 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

令和3年度 登山部指導委員会登攀技術研修会、……………	2
A級・B級主任検定員養成講習会、コーチ2 養成講習会報告	
UIAA資格委員会主催 上級夏山リーダー検定会開催 ……	5
「山岳文化継承への1 試案」 八木原圀明……………	7
第155回 Mountain World ……	9
Enjoy Climbing ……	10
沖縄県山岳・スポーツクライミング連盟自然保護委員会のSDGsな活動 …	11
JMSCA、表紙のことば、編集後記 ……	12

No.638

埼玉県開催
令和3年度

登山部指導委員会登攀技術研修会、 A級・B級主任検定員養成講習会、コーチ2養成講習会報告

令和4年3月20日(日)～21日(月)

埼玉県飯能市において登攀技術研修会および A級・B級主任検定員養成講習会、コーチ2養成講習会が埼玉県飯能市東吾野行政センターおよび平戸の岩場、大野道場にて開催された。

今回は研修5名、A級主任検定10名、B級主任検定8名、コーチ2養成講習4名、講師7名、埼玉県スタッフ76名の計40名での開催となった。

新型コロナウイルスが流行しており、10月開催を3月に延期し、また直前に福島県沖地震が発生し新幹線・高速道路も被害を受けた状態で、岩手、福島からの参加も危ぶまれましたが、ソーシャルディスタンスを取りつつ、ワクチン2回以上の証明提出、事前の体調チェック、

検温記録を必須としかつ宿泊は飯能市のビジネスホテルのシングルか近隣の方は自宅から通いで、懇親の場も設けず、感染リスクを極力避けた態勢で開催されました。天気にはめぐまれ、充実した講習が行われたものと思います。

今回は、北海道、岩手、福島はもとより、長野、三重、広島からも参加者があり、今後の参加の広がりも期待で



きるどころです。埼玉県山岳・スポーツクライミング協会、地元山岳会の皆様には、大変お世話になりありがとうございました。今後の開催につきましてもしばらくはこのようなスタイルでの開催が続くと思いますがコーチの全国での養成講習会の開催を期待し、また、登攀技術の向上も図りたいと思います。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(指導委員会 野村)

受講生感想

神奈川県山岳連盟 松嶋麻子
(A級主任検定養成講習会参加)

春の陽射しの暖かい中、3月20～21日に埼玉県で開催された主任検定養成講習会に参加させていただきました。長引くコロナ禍の中、当初は11月に予定されていた講習会が延期され、新たな日程での開催に、事務局の皆様におかれましては大変なご苦労があったと思います。十分に新型コロナ感染対策がとられた講習会場の準備、宿泊や移動についても考慮いただき、JMSCAと埼玉県の事務局の皆様には大変お世話になりました。

私は今回初めてJMSCAが開催されている講習会に参加したため、レベルの高い講師の方々、全国から集まった参加者の皆様の熱心な姿に大変刺激を受けました。従来は懇親の場もあったとのことですが今回はざっくばらんに交流することができずに残念でした。

座学による講習では、改めて勉強し直す内容や、JMSCAとして呼称や指導法を統一している内容など、古い情報をアップデートすることができました。

実技の方では、制動確保とビレイヤーの自己確保や各自登攀と懸垂下降について、簡潔な手順の習得と、わか

り易い表現の重要性を確認することができました。

検定員になるにあたっては、評価方法の統一、評価のポイントなども教えていただき、今後は主任検定員として、スタンダードな登山技術と安全登山を普及する人材を養成検定していきたいと思っています。

ここ2年間は緊急事態宣言やまん延防止により、所属の神奈川県山岳連盟や所属会での交流や活動が制限されていましたが、徐々に活動が再開され、感染対策を考えた山行や講習会の実践方法も徐々に確立されてきまし



た。今回2日間にわたり、充実した内容の講習会を受講でき、自分自身のモチベーションもアップしました。このような地道な講習会が開催されることは大変意義のあることであると実感しました。機会があればまた参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

東京都山岳連盟 **菊地仁美** (研修会参加)
～堤講師の叱咤激励を得て充実の2日間～

3月20日(日)

飯能市東吾野地区行政センターにおいて、全体で、①机上講習、確保理論(講師：蛭田氏)、②実演、仮固定から自己脱出(講師：堤氏)の後、午後から各コースに分かれての活動となる。以下、登攀研修会の内容。天候は晴れで穏やか、風もあまりなく、翌21日にかけて春日和でした。場所を大野アルパイン入門道場に移動。

○2人1組でビレイデバイスでのロープの繰り出し、たぐりの反復練習。途中から1人が急に荷重をかけ(ジャンプ、ぶら下がり)による制動の練習。ロープをスムーズに流しビレイデバイスの上下動をなくす。しかし、実際はビレイデバイスの上下動によりカラビナとの接触音がカラカラと鳴ってしまう。何度も繰り返す。相手の動きを見て合わせるのがポイントなのだが、手がスムーズには動かない。制動確保では堤講師から「確保姿勢は見た目きれいに、かっこよく。」重心や姿勢に無理がなくスッキリしている状態とするようにとのアドバイスがある。

○ブリッジプルーゾック等を使った登り返し(スリング2本又は1本での方法)。ブリッジプルーゾックの機能、利点と巻き方の説明の後、2人1組で練習。スリング2本の場合、スリングはハーネスと足用。交互にスリングを引き上げ登り返す。1本の場合は、足用プルーゾックの代わりに折り返したロープ同士、又は靴に絡めて靴とロープのフリクションを使っての登り返しとなる。

堤講師「あきらめない。今の形ができないなら何でもいから登ること。あきらめ癖をつけない。本番で生死を分けるのはあきらめだ。」、1日の最後に「知識技術を教えるだけでなく、あの人みたいになりたいと目標となるようなよき指導者となるように」。

3月21日(月) AM

○仮固定から自己脱出

始めに一連の流れの個々の動き毎に確認、仮固定(ビレイデバイス中通し、オーバーハンドノット)、ロープにマッシュャートレッセを結び支点と接続、マッシュャートレッセが効いているのを確認しつつ、オーバーハンドノットをほどこきロープの荷重をビレイヤーから支点



に移動、マッシュャートレッセ下にスリップノット、ロープをムンターヒッチで支点に接続し、中通し、オーバーハンドノットで固定、マッシュャートレッセを徐々に引いてほどこく。その後2人1組、片方が荷重をかけた状態で一連の流れを確認。ここではできた積みだったので、午後の確認で反省することとなる。

なお、ムンターヒッチはカラビナに巻いたコブが荷重方向に返った状態でロープのたるみをなくすこと。これがなかなか微妙で、コブを返すとたるむので、ロープを張る調整が必要になります。

また、支点の構築に関して、複数の支点にスリングをかける場合、流動分散等色々な方法がある中で、長いスリングを使って複数支点にかけたスリングを荷重方向を意識して一括オーバーハンドノットで結ぶのが実践的であることなどを教わりました。

3月21日(月) PM

○タイヤ落下での制動確保確認

様々なパターンで体験。体勢をとっていないと引きずられる、カラビナ1枚でも通してロープの向きを変えると負荷がかなり減少すること等を実感。何回か繰り返してロープを流しての制動も体験する。

○仮固定から自己脱出

2日間のまとめ、タイヤを使って一人ずつ順番に実施。手順を間違えないように強く意識する中、手元ばかりに集中し余裕がなく、体勢、結び方など反省点が明確になる結果となりました。堤講師の最後の講評「講習会で間違ってもいいんだよ。間違いに気づいて練習してできるようになれば良いのだから」。2日間ありがとうございました。

静岡県山岳・スポーツクライミング連盟 **鈴木 修**
(B級主任検定員養成講習会参加)

埼玉県の飯能市で行われた日本山岳・スポーツクライミング協会の「令和3年度 登攀技術研修会」に参加した。私は「B級主任検定員養成講習会」に同じ静岡県の



指導委員会の小林さんと参加した。B級の参加者は8名だった。

これは全国的な問題のようだが、主任検定員の減少、高齢化による問題で主任検定員不在の都道府県が少なからずあるようだ。静岡県でも、山岳コーチ1養成講習会を県独自で開催する事を継続するために私たちは養成講習会に参加した。

全体での開校式のあと、そのまま机上講習となった。「登攀用具の知識と理解」では改めてクライミングロープの用途と種類を復習した。ロープは日進月歩でより細く軽く水に強いものが商品化されている事やロープバックを使う事が最近の常識になっている事等を研修した。

その後は堤講師の「ビレーヤーの脱出」の実演を見学した。同行の小林さんは熱心に撮影していた。それらの資料を利用して、自己脱出の手順を静岡の岩場のゲレンデでゆっくりと復習したと思った。

昼食後は、各グループに別れて装備を付けて「平戸の岩場」に向かった。「B級」は主にフィックスロープを張っての悪場の通過の実践だった。参加者は皆さんベテランでスムーズなロープワークだった。皆さんは基本的に忠実で正しい結索方法を人に教える事が出来、私も基礎から学ぶ事の大切さを感じた。

2日目は、瀬藤講師による「地図読み」をしながらの実際の歩き方等の講習を兼ねての検定だった。事前に8枚



の地図を渡された。1 / 25000の地形図4枚と1 / 10000の地形図4枚だった。情報量の違いを学んだ。4人で1パーティとなり、リーダーを交代しての検定だった。要所所で現在位置を確認したり、今後のルートを想定したりした。また、ルートをわざと外してみたり、地形図上のルートと実際が違う事などをどうやって初心者に説明すべきか必要な言葉を確認した。

下山前にツエルトをパーティ毎に張ってみた。その張り方の良い点・悪い点を話しあった。ZOOMで行われた「安全登山指導者研修会」でもツエルトは常時携帯すべきとの事で私はそれ以来里山のハイキングでも携帯するようにしている。これは、安全登山のために普及していきたいと思った。

下山してからの机上講習は、規定や規約集の説明だった。なかなか煩雑で大変なことが解り今まで従事してこられた先輩方の苦勞が解った。

2日間の研修会を終えて、改めて指導法も難しさを再確認した。自分が出来ることと人にいかにきちんと人に教える事。いかに理解してもらうかは別のもつと感じた。その辺りを学びなおして静岡県にも公認コーチ1が増えていけばよいなあと思いながら埼玉をあとにした。

最後に、コロナ禍の中講習会を開催していただきありがとうございました。JMSCAの指導委員会の皆様、埼玉県山岳SC協会の皆様に感謝しております。



UIAA資格委員会主催 上級夏山リーダー検定会開催

令和4年4月22日(金)～24日(日)の3日間、兵庫県道場駅およびセミナーハウス周辺で開催された。

7月に査察を受けて夏山リーダーのUIAA認定を取得するための最後の検定会の開催方法の確認も含めて本物の検定会と同じことを実施しながらシュミレーションするのである。

22日(金)9時20分集合、この日は本来とは逆の6章：危険個所の通過からスタートするために、兵庫の受講者：西村、方山の2名と、関西の講師：青山、小畑、古賀、関東の講師：蛭田、野村、平野および鹿児島島の清水の合計7名が道場駅に集まりました。

道場駅周辺はいろいろなハイキングコースや、クライミングエリアもありナビゲーションの講習会をしたり、ハイキングの講習会をするには打ってつけの地形が広がる場所です。青山氏はこの地区で何十年もナビの講習会をおこない独自の地図も作り獣道まで知り抜いていて、難易度表まであります。そこで今回の上級編のナビを行います。

車で5分の千刈広場駐車場に移動して開校式を行い、本日の説明後危険な場所の通過検定場所へ移動します。歩いて5分です。

上級夏山リーダーの検定は、実技ができるかよりもいろいろなケースの判断力を試されます。そこで、実際の2泊3日の山行を想定して進めていきます。

具体的には、4人パーティーで、Aさんが登山経験10年のリーダー、B、C、Dさんは登山経験の少ない引率されるメンバーである。特にDさんは体力もなくバテルという想定で、今回は受講者が2名なので、Aのリーダー役を交代でおこなっていただき評価する検定である。

想定のコースは、10月8日夜行バスで、中房温泉より入山、燕山荘―燕岳ピストン―大天荘テント泊。



9日前泊地―大天井岳―東鎌尾根―殺生ヒュッテ(テント泊)―槍ヶ岳ピストン。10日前泊地―横尾―上高地(下山)。

3日間ともコースタイム7.5時間から8.5時間で、途中バテたり天候の悪化で送れると予定の工程では難しいコースである。本来は、寝不足でDさんがバテて、稜線で雷雨に会いツェルトをかぶり雷雨が通過するまで待ち燕山荘に1.5時間遅れで到着して燕岳を登るか登らないで先のテント場に行くか判断が迷う場面より始めるが、そこの担当の中島講師が2日目よりのために、今日は、2日目の東鎌尾根の岩場の危険個所で、CさんDさんが怖がるために安心を与えるロープを使用して通過する場面より始める。

第6章で、担当は小畑講師です。まずは危険なトラバース箇所をFIXロープを張り通過します。

リーダーは、平行に移動する岩場に到着すると危険な箇所なのでロープを張り通過することを説明して待機してもらいます。

補助ロープをスタート地点の立ち木に二重巻きにしてオーバーハンドノットで固定します。ロープを出しながら数か所にガスヒッチでランニングビレイを取ります。終了の安全地帯の支点到に固定します。固定し





たら戻りながら点検しスタート地点に戻ります。

待機しているBさんCさんDさんへロープを手すり代わりにして通過することを説明して怖がっているDさんにはリーダーが前に立ち1歩1歩手足の置く位置を説明しながら通過します。終了点に到着したらスタート地点に戻り回収しながら終了点に戻ります。このCさん、Dさんの怖がる役割(ロールプレイ)を講師のが行います。リーダーのFIXロープの張る手順、メンバーへの説明、Dさんへの補助の仕方を検定して点数を付けていきます。検定場所の設定が一番大変です。同じ場所でUIAAの査察も受けるためです。時間も測り、この方法で良いかのシュミレーションをします。

次に急な登りです。ここではロープを自分の体に結索する方法(オーバーハンドノット)を最初に説明して自分だけでもできるようにした後に、一旦外してリーダーが安全な終了点に登ります。

確保支点を構築して確保体制に入りスタート地点のメンバーに声をかけてロープを結索してもらい登らせます。

2日目は、第4章のナビと第5章のセルフレスキューを組み合わせで行います。午前中はリーダーが交代しながらナビゲーションを行い間違えないで予定コースを歩けるかと、藪の中で100歩の三角ナビを行いリーダーの邪魔をする(ロールプレイ)CさんDさん



の中で誤差10m以内でスタート地点に戻れるかを実施しました。午後のセルフレスキューは、中島講師が全体を見て、Cさん(野村(雄)講師)が休憩中に写真を撮っていてガケから落ちて倒れているところから始まります。

Dさんが見つけたリーダーに報告して、リーダーがメンバーに説明して安全な場所より近づき頭を押さえて全身観察し安全な場所に移動して処置をするまでの検定を行います。

セルフレスキューが終了して一旦セミナーハウスに戻り夕食を食べます。暗くなる19時少し前より夜間ナビを開始します。

21時近くになりようやく終了して、各自入浴して宿泊ハウスのセンターで今日の反省を24時ごろまで語りました。

3日目は低体温症になったCさんをツェルトに入れて、プラティパスにお湯を入れて胸に挿入してレスキューシートにくるむまでの処置です。

最後まで熱心に行われました、3日間お疲れさまでした。

(蛭田伸一)



「山岳文化継承への1試案」

八木原圀明

わが国は人口減少社会に入り、登山界もご多分に漏れず高齢化し登山活動も様変わりをしています。明治、大正、昭和初期の登山者の多くのように「少ない小遣いを貯め、なけなしの金で登山用具や山の本を買った」などと言う話は今や作り話か落語のようです。

私達のように戦後生まれでも山の本も登山用具もそうそう簡単には買えませんでした。中学3年生の終わりの2月の末、高校入試直前だったが友人に誘われ、雪の赤城山に登りに行った。大沼(オノが正式な名称です)に突きだした小鳥が島を目指して、冷たい風の吹き、アイススケートリンクが何面も整備された氷上を歩き出す。

小鳥が島の裏側の黒松山への大きな凹状の沢筋に登りだす。今思えば黒松山への登山ルート of 右斜面であった。だんだん急になってくるし、雪はますます深くなり、腹を越え胸まで埋まってしまう。そんなころ友人は「八木原ッー、足が冷たくてダメだ。下ろう」という。私もこれ以上登れっこない、と思い出したころだ。

冬の山も知らず、私はキャラバンシューズだったが、友人は布製のバスケットシューズだった。あつという間に濡れてしまい、がまん出来なくなった。安全圏まで下れば元気を取り戻す。このままでは帰れない。地藏岳下のスキー場まで行き、ゲレンデの右端のロープウェイの下を登ると雪もそれほど深くなく何とか登れる。そのまま鉄塔の立つ地藏岳の頂上に登り、強風に脅され、早々に下山した。

その4月、高校山岳部に入り皮の登山靴が欲しいが親には言えない。秋の修学旅行の小遣いを貯め、3年生が履いていた中古の登山靴を譲ってもらった。サイズがちょっと大き過ぎたが贅沢は言えない。靴下をもう1枚重ね履きすることで我慢した。底のゴムが剥がれると目ネジで止めるが、ネジが長すぎて足に刺さるので、先端を切ってまた打ち直したこともあった。

そんな化石のような山好きはどんどん減っていくのが現代です。その人たちにとって命の次に大事な、宝物のような山道具や貴重な山の本でさえ、残された家族にとっては「ただのゴミ、厄介物」です。「このガラクタの山さえ無ければ、1～2部屋生まれる。孫、子供用の個室が出来るのに！」です。

昨今の古書店では買い手がいませんので引き取ってくれません。県立、市立の図書館に寄付したいと相談し

てもにべもありません。本が「リサイクル古紙」で出されればまだ上出来です。燃えるゴミ扱いで放り出されているのが現実です。良く知る蔵書家の私の先輩ですら先日の雑談中に「終活を始めたので山岳雑誌や本をまた数百冊捨てた」と苦笑いしていました。

笑っては済まされない大問題です。私自身も10数年前に仲間たちと谷川岳の麓、土合で山岳資料館を開館(群馬県みなかみ町立として)しましたが、捨てるに忍びない登山靴、ザイル、ピッケル、キスリングなどの登山用具や垂涎的で高価だったはずの希少、貴重な本などを引き取って欲しい、貰って欲しいと言われます。

私共登山愛好者にとって残すべき、伝えてゆくべき山岳文化、登山に関わるあらゆること?を絶やしたくない、残したい。保存や出来ることなら展示までして伝えて行きたい。しかしながら、そう簡単に専用の建物を作れるはずも作ってもらえるはずもありません。ならば、と既存建物を再利用しての資料館がそんなに都合の良い場所や広さがあるはずがありません。それでも維持費はかかります。それより何より資料館、博物館にとっての生命線であるバックヤード、物置、倉庫スペースが絶対的に足りません。

蔵書側としては数百冊、数千冊の本を出来ることならバラバラにして欲しくない。一括した「〇〇文庫」というような形が希望である。館側としては気持ちは理解できるがすでに同じ本が何冊もあり、必要な本だけ欲しいという本音もある。とにかくスペースがない。開館当時は閲覧用と保存用に各2冊ずつ欲しいと思ったが今ではそんなことを言っていられない。

本を寄贈して下さった方々には申し訳ないが、今後の受け入れを考えれば何とかしなくてはならない切羽詰まった状況だが捨てることは出来ない。思案投げ首後に私が思い至ったのは群馬岳連の大先輩、石井謙一郎さんの「スキーと登山、アウトドア用品店・DREAM BOX」の売り場の1部を使わせてもらうことだった。

すぐに飛んで行くが今では店を切り盛りしている大先輩の孫、3代目しかいない。3代目に「この壁をオレに使わせてほしい」とコーヒーサービスコーナーの横の商品の並ぶ広い壁面を陣取り合戦のように指で描いた。

図々しいにもほどがあるが、ありがたいことに話はほとんどん拍子に進む。貴重な本を処分することなく、有効

利用する道が開けた。言い方は悪いが良い実験場がありました。店の奥の倉庫の棚にならぶ登山靴、スキー靴などをつめてすぐさま本を運び込み始める。

こうしていつでも読める、見られる街中に山岳図書室が出現しました。こういった方法で広めて行けば、処分したい側と登山用具店などを私共日本山岳・スポーツライミング協会、労山、JACなどの山岳団体、登山愛好者、私共山岳資料館、山岳博物館側が情報ネットワークを張り巡らし、仲介すれば日本中の各都市、各町に規模の大小はあっても山岳図書室が出来ます。

放っておけば捨てられてしまうかも知れない本が生きているという寸法です。日本山岳会の資料委員会が「全国山岳博物館等連絡会議」を長年開催しています。さらに商店街や観光地の空き店舗、旅館・ホテルの遊休スペースなどにも視野を広げれば、可能性はより一層ふくらみます。登山界の再活性化も新しい登山愛好者発掘も見込めます。

それぞれの地方、地域とかかわりのある図書コーナーを設ければ面白いと思います。群馬で言えばドライ・ラマの親衛隊長・矢島保治郎、第3代日本山岳会長・木暮理太郎、ヒマラヤニスト・山田昇、北極・南極・エベレストの3極点到達者の中村進や群馬岳連のヒマラヤ登山など。切り口次第でテーマは広がります。地域の人たちも知っているようで知りません。知られていません。忘れられてもしまいます。

登山用具などについてもとっくの昔から古い、貴重な登山用具類をきちんと保存したり、展示したりしておられる輸入商社やメーカー、小売店があることは承知していますが、残念ながら一般の登山者と繋がっていません。登山用品専門店が豊富な知識を発揮し、売り場の一角を充てて「登山用具発展の歴史」コーナーみたいなものを作ってくれればもっと直接的に伝えて行けるのではないのでしょうか？



ドリームボックス山岳図書・金子、八木原

私共の谷川岳山岳資料館も展示室は情けない位のスペースしかありません。展示室の狭さ少なさを逆手にとって「バックヤードツアー」的に興味のある人には倉庫、収納庫を開放して行きたいと考えています。各室にカメラを設置し、来館者は1階の大型モニターでそれぞれの部屋の展示内容や収蔵品を知ることが出来ます。モニターの公開、閲覧は館内の展示案内と共に犯罪抑止措置としての効果が得られます。こういった機械設備類も各種あり最近では割合と廉価です。

ただ、このような手を講じても、処分される本や資料は加速度的に増えていきます。処分前にそれらをいったん集約し、必要なものを電子データとして保存するデジタルアーカイブ化の仕組みや機構づくりも「街中山岳図書室構想」とあわせて検討すべき時と考えます。

草の根的な街中山岳図書室も物理的スペースには限界があります。電子化しておけば、基本的にスペースは無限であり、検索や閲覧も容易になり、インターネットを通してどこからでも利用できるようになります。頭が痛いのはその核作りにも人とお金が必要です。

デジタルアーカイブと街中山岳図書室を有機的に組み合わせた「山岳資料アーカイブ構想」を山岳団体や山岳図書の発行元、全国山岳博物館等連絡会議、日本山岳会図書委員会、日本山岳文化学会などが中心になって本格的に構築することを真剣に検討していかないと、貴重な資料が散逸し、山岳文化研究の歴史にも空白を生じさせることになりかねません。山岳文化財が次の時代に無事に伝わってゆくことを願います。名著も迷著も残したい。

ちなみに前述の群馬県伊勢崎市の「ドリームボックス」の山岳図書コーナーは2022(令和4)年1月末現在で雑誌も入れて約800冊となりました。もう100冊くらいは入ります。



ドリームボックス山岳図書・石井謙一郎さん

第155回 Mountain World

LA NORTE セロ・トーレ北壁の遭難

池田常道

コラード・ペシェ（イタリア）とトマス・アギーロ（アルゼンチン）が1月26日、セロ・トーレ（3102m）北壁の新ルートを実験した。イタリア「レッコの蜘蛛」隊のマッテオ・デラ・ボルデッラ、ダヴィド・バッチ、マッテオ・デ・ザヤコーモも同じころ、東壁のディエードルを初登って北壁へとトラバースしてきた。両者は頂上の下300mのビバーク地で一緒になり、翌日の頂上攻撃は共同で行なうことになった。ペシェとアギーロが先行して午後5時20分に登頂。デラ・ボルデッラらは30分遅れて頂上に立った。おたがいの成功をひとしきり祝ったあと、ペシェとアギーロはビバーク地まで戻らざるを得ず、レッコのトリオを誘ったが、デラ・ボルデッラらは予定どおり頂上でビバークし、南東稜へと下るほうを選んだ。これが運命の岐路になろうとは、だれも気付かなかった。

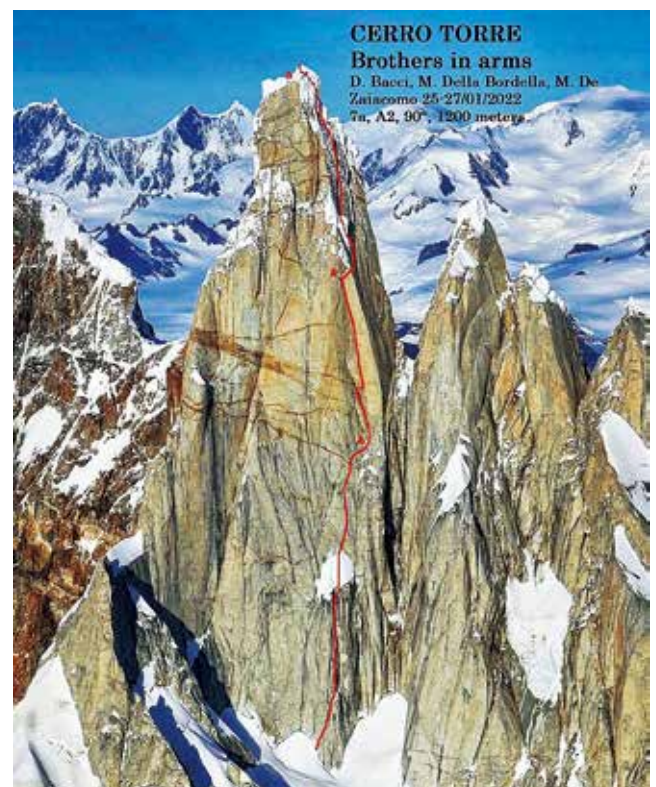
セロ・トーレ北壁は、チェーザレ・マエストリが1959年に初登頂と偽って報告した曰く付きのルートである。彼の嘘は疑われながらも生きながらえたが、46年後、同じイタリアのエルマンノ・サルヴァテッラらが北壁から頂上に立ち、マエストリが登った痕跡がどこにもなかったことを明らかにした。

2013年、アギーロはニコラス・ベネデッティと、76年のアメリカ隊がトーレ・エガー初登頂時に使ったルートから北壁に入り、ダイレクト・ルートを拓こうとしたが、6ピッチ登って気温上昇と天候悪化で引き返した。翌年ホルヘ・アッカーマンを加えた3人で再挑戦したが、東壁ディエードルの高さで敗退した。ここは81年にイギリスのトム・プロクターとフィル・バークが試みたところで、今回レッコ隊はこちらを登って北壁側に回り込んでいる。2019年アギーロとアッカーマンはペシェと組んで北壁に挑戦したが、ペシェが手指を負傷したのと風が強まったため、またも敗退を喫した。翌年の挑戦も悪コンディションに妨げられた。今回はアッカーマンが来られないので2人だけで試み、ついに成功したのだった。

ライムアイスが張り付いた北壁を下るのは落水や落石に遭う危険がある。そこでペシェとアギーロは、気温が十分低下した夜間を待って下ることにした。懸垂下

降を開始したのは7時だが、雪解けの滴りが落ち着くまで肩で10時まで様子を見ることにした。ビバーク地に帰ったのは午前2時。疲労困憊の身に水分と食べ物を補給すると下半身を寝袋に入れ、下降を再開する前に少し休むことにした。

崩落が起きたのは午前3時半ごろだった。岩と氷が落ちる轟音に気付いて右側に身を避けようとしたが、間をおかずさらに大きな崩壊が起こり、確保ロープが切れ、レッジから投げ出された2人は2、3m下で止まった。背後を護っていたフレークは跡形もなくなったが、砕けた岩が降り注いだだけで直撃はまぬがれた。全身を落下物に打たれ、骨折の痛みで動けなくなった。アギーロはかろうじて上半身を動かしたが、ペシェは動けないうえ意識もはっきりしない。朝6時半ごろ、残っていた50mロープを頼りにアギーロは下降を始め、ヘッドランプでSOSのサインを送った。異変に気付いた下のキャンプからの救援隊が下りてくるアギーロを収容したが、ペシェは転落したのか、まだ見つかっていない。



セロ・トーレ北壁「レッコの蜘蛛」隊の新ルート。ペシェとアギーロはこのラインの右手を直上して最後のビバーク地で合流、共に頂上に立った。レッコ隊は頂上でビバーク後南東稜へと下ったが、ペシェとアギーロは北壁のビバーク地まで下降したところで悲劇に見舞われた。マッテオ・デラ・ボルデッラ撮影

Enjoy Climbing

連載②

Enjoy Climbing 目指して

ネパールから帰国してきました。今回はヒマラヤの沢を覗いてきました。素晴らしい沢がヒマラヤにも待っていることを確信した良い遠征となりました。この山行については、いつか報告したいと思っています。

さて前回からの続きですが、前回紙面的に載せられなかったこれまで印象に残った国内山行&主なフリークライミング一覧を以下に示します。

これからの連載では海外の記録と共にリストにある登山の話も出てくるかもしれません。

また、話が飛んでしまいましたがつい先日、私の恩師の一人が亡くなりました。私の登山人生の始まりに大きく影響を受けた方ですので、ここでも少し触れさせていただきます。私が登山を始めたのは高校から。甲府第一高等学校という山梨で最も伝統ある高校で登山部に入りました。釣りが大好きなサッカー部員だった中学生の頃から、「高校からはサッカーはやめて、釣りのように自然の中で自分のペースで楽しめる事をしよう」と思っていて、高校からは山岳部に入ろうと決めていました。強い山岳部はどこなのか調べもせずにイメージ先行で入ったのが一校でした。割と有名な「強行遠足」という100km強の行事を当時も(現在でも)行っており、「全校生徒が参加して100km強をやっているような高校なら山岳部もちゃんとやっているだろう」と思っただけの入学&入部でした。

高校山岳部としては珍しく「山岳部OBの会」が山岳会として存在していました。その名も「鶴城山岳会」。甲府城(舞鶴城と呼ばれることもあります)に設置された甲府学問所・徽典館をルーツとしていることから、鶴城山岳会なのです。カッコいいでしょ。JMSCA所属の山岳会になります。

鶴城は現役高校生とのつながりもあり、毎年新年会に現役を呼んでくれました。高校時代、そこに参加してカラコルム遠征のスライドを見せて頂き大変刺激になったことを覚えております。

高校山岳部時代は雪山登山は禁止でしたので部としては出来ませんでしたが、高校3年が終わった春休みのようなタイミングで、3月の八ヶ岳(私にとっての初の本格的雪山)に連れて行ってくれたのも鶴城山岳会の先輩たちです。

そのタイミングで卒業祝いとして「ヒマラヤ名峰辞典」をくれた先輩が遠藤靖彦さんでした。私のヒマラヤ方面

でのバイブルとして今でも存在し続けている本です。

KAC(鶴城山岳会の会報)の最後の掲載となる遠藤さんの文が良かった。偶然としてはできすぎな話ですが、この文を読んでなんとなく遠藤さんの事が気になり久々に鶴城山岳会の先輩に電話したら「今日、お通やだよ」と切り出され心底驚いたものです。「～中略～現在に至るまで、私の山登りは、何処を切っても楽しさの積み重ね以外は何もありませんでした」(KAC 2020～2021より)

前号でも話した「パタゴニアでの事故&復活」以降、私の中で大きな心境の変化がありました。その中心にあるのは「これからの人生、思いっきり楽しもう!」と言うことになると思います。遠藤さんが綴ったご自身の登山は、私の目指す登山そのものであると深く共感しました。遠藤さんの様に登山人生を振り返った時、良い人生だったと思えるような山行を続けていきたいです。

遠藤さんのご冥福を心よりお祈りしております。これまでありがとうございました。

そうそう、以下の山行リストを久しぶりに見てみると遠藤さんのように「何処を切っても楽しさの積み重ね以外は何もありません」とは言い切れないかなあ。特に激しい減量もしてしまう私にとっての高難度フリーは「全部楽しさの積み重ね」と言うには無理がありますが、それも含めて良い経験で今となっては楽しく振り返ることができるのです。次号こそは、瑞牆「現人神」について話になると思います。

●国内山行 & フリークライミング 一覧

積雪期登山

称名滝冬季初登

巖冬期 黒部横断～劔岳八ッ峰(2008, 2010, 2011, 2012, 2013, 2015, 2016, 2018 敗退)

3月 単独黒部横断～劔岳八ッ峰(2001)

正月 穂高岳 継続登攀(前穂東壁～奥穂～滝谷～槍西稜～北鎌尾根～唐沢岳幕岩)

日本海～北方稜線劔岳(5月)

アイスクライミング

カネコロン WI 6 120m

米子不動「百草丸」初登 3P・120m

南アルプス「飛竜」VI 100m

小町の宿 開拓 2005年(スポーツミックス 和(かのう) M10 / W15 初登)

フリークライミング(トラッド中心の成果)

瑞牆山 千日の瑠璃 5.14 a R, 5.13 c R X(7ピッチのマルチ)

昇仙峡 情熱の薔薇 5.14 b R 初登 (2015年。日本最難クラック?)
 城ヶ崎 マーズ 5.14 a (2010年。当時の日本最難クラック 21年振り第2登)
 錫杖岳 しあわせ未満 (5.13 c / d R) 初登 (当時の国内最難マルチピッチルート)
 城ヶ崎 モータードライブ 5.12 OS
 谷川岳 衝立岩グリズリー 5.11 d OS
 瑞牆山 継続クライミング (50 P) 26時間 (2010年?)
 瑞牆山 約24時間で9ルート、67ピッチ (2018年)
 佐渡島 ディープウォーターソロルート「青い鳥」 5.13 a (2016年8月)
 瑞牆 ベルジュエール (5.11 b, 10 P, 290 m) スピードクライミング 20分
 甲斐駒ヶ岳 スーパー赤蜘蛛フリーソロ 5.12 a 300 m (2017年)
 宮崎の岩場 小山手本ダキ「ビューティフルマインド (7 P, 5.13 c)」開拓・初登

ヨセミテ エルキャブ フリーライダー 5.12 d 35 P 1000 m 完登
 ヨセミテ エルキャブ ノーズ (31ピッチ / 5.14 a)
 ※2シーズンのトライで全ピッチのフリークライミング完登。(28 P ~ 30 P目 5.10
 dの間はツルベによるトップ&フォローでのクライミング)
 ザイオン ムーンライトバットレス 5.12 d 12 P 360 m チームオンサイト



オアフ島にて

沖縄県山岳・スポーツクライミング連盟自然保護委員会のSDGsな活動

「やんばる」*には、豊かな自然の中で進化を遂げた固有種が数多い。そのやんばるの山々の自然環境が、今、大きく変わりつつある。

登山者が自然の中を歩き周り、外来種の種などが靴に着いたまま山に入ると、その種が成長して本来の自然美を変えてしまう可能性があるため、登山口では靴に着いた土を落とす様に指導している。登山者は快適な自然環境を利用する権利を持っていると同時に、優れた自然を守り次の世代に引き継ぐ責務も有している。特に対策が必要なアメリカハマグル、ツルヒヨドリなどの外来植物等々を見つけた時には、できるだけ除去することで少しでも変化を食い止めようとしている。

多くの登山者が利用する「本土」の多くの山岳地帯は、国立公園として指定され自然環境を守るシステムも整っている。それに比べ、沖縄県の山々は、西表島・やんばるの一部が国立公園に指定され、2021年8月には世界自然遺産に登録されたものの、他のやんばるの山々は保護のシステムが整っていない。行政はやんばるの自然環境の変化を把握する力も持ち合わせてない。そのような状況で、そこを利用する私たち沖縄県山岳・スポーツクライミング連盟(以下「岳連」)が自然環境の変化を点検し、異常があれば行政に情報を提供して対応を求めて行く活動が非常に重要となって



やんばるの森を歩く

いる。今後ともやんばるの自然環境を護っていくために、自然を守る能力を更に高め、保全のために積極的に情報を提供していこうと思う。

岳連が実施するやんばるの登山道整備は、草刈りも最低限とし台風の影響による倒木も放置、看板等の設置も控えて生き物にやさしい登山道としている。世界自然遺産に指定されたやんばるの登山道は、藪状態で歩くのも大変であるため、地図が読めなければ遭難の危険も多い。登山者にはその知識を知ってもらうために「藪歩きの実践ナビゲーション」講座を行っている。名桜大学の教育研究活動とタイアップしたプログラムで、毎年、やんばるの山で登山を体験し、自然の大切

さや、地域社会に貢献・活躍出来る人材の育成、指導をしている。

また、名護市勝山公民館、岳連が主催する恒例の清掃登山は、シークァーサー花祭りイベントに併せ実施し、登山者130人をガイドしている。祭り開催日の一週間前に、シークァーサー畑を通り抜けて、三角山～安和岳～古巣岳～嘉津宇岳を縦走するコースと、ロッククライミング岩場(ロストワールド)、八重岳を清掃、自然保護区に指定された沖縄で人気の山域で登山者も多く、登山口にはゴミ等々も多い。また登山者が道しるべとして10m間隔で取り付けた赤テープ等も沢山あり、これも一緒に回収をしている。

やんばるには稀少の生き物が多く、それを保護するため、主に沖縄ルーツの小動物の飼育、繁殖に興味ある者が交流して、情報交換や技術・ノウハウの向上などを目指している。また子供たちなどには楽しく飼育体験をさせ、自然、生命、環境の大切さを訴えている。また自然、生命、環境に関する地域イベントなどにも

車に轢かれる爬虫類等が後を絶たない



協力、積極的に参加をしている。(*「やんばる」とは、沖縄北部の豊かな森林が広がる地域のことです。NHKの朝ドラの『ちむどん』のロケ地はやんばるの原風景が残る場所)

(沖縄県山岳・スポーツクライミング連盟
理事長 田場典淳)

JMSCA

令和4年度
第13回Web理事会議事録

○日時：令和4年3月10日(木)
14:00～16:45

○場所 Web会議

○出席者：丸会長、亀山、高野副会長、小野寺専務理事、古賀、村岡、相良、蛭田、濱田各常務理事、山口、町田、前田、山本、六角、青山、水村、栗田、水島、野村、安井、小竹、笹生、原各理事、中畠、古屋各監事

○欠席者：小日向副会長

○同席者：赤尾浩一事務局員

1. 開 会

2. 会長挨拶

本日も出席ありがとうございます。直近では、BJC、LJC、そして2月26、27日には山岳スキー日本選手権も行われ、いろいろ問題はありましたが、無事終了したことをご報告します。また3月5日には秦野のパラクライミング大会を見ることができ、小林会長とも話をすることができました。今月は、15日(火)から、ISFCの会合に出席し、今後何をしていくべきか日本から発信していきたいと思えます。マーケティング活動は順調に推移。SNSを通じた発信も増やしていますが、協賛会社の新規開拓につなげたいと思えます。最初は、すべてはノーから始まりますが、皆様のご協力をお願いします。

3. 会議成立状況報告

理事数 24名中23名出席

監事数 2名中2名出席

4. 議 題

議案第1号 議事録の承認について

事前送付された2021年度第12回理事会議事録に関して全員異議なく承認された。

議案第2号 令和4年度事業方針及び計画承認について

配布資料を基にして小野寺専務理事から説明があった。2月にドラフトとして提案したが、今回、正式版としてまとめた。要旨としては、次のようになる。

まず、前文で、東京オリンピック及び山岳スキー大会について言及。令和4年度の項では、中期計画について、Vision, Mission, Valuesを見直しつつ、加盟団体を含めサポートしていきたい。スポーツクライミングでは大会運営のノウハウを向上させること、登山については山岳事故を減らす、最近の傾向としてアルパイクライミングの衰退が見えるなかではあるが、自然保護関係では、先日総会があり、動きがでてきたこと、山岳スキーとアイスクライミングについては今後どうしていくか、IFと連携しながらサポートしていくという内容を記述した。

ガバナンスコードは、今年10月に査察があるので、ガバナンス委員会と協調し、その対応が必要なることを述べている。組織及び財政運営については、拡充が必要だが、関係省庁との連携及びスポーツ庁や、JSC、JOC、JSPOなどの関係機関団体への働きかけを行い、財政確立に努める。次に、各委員会の活動をまとめたが、一部日付の変更、ストップザ1000は費用の関係もあり一時停止、P15-19については、日程は多少変わる可能性はあるが、活動自体はこの内容を予定している。

議案第3号 令和4年度予算方針及び予算承認について

小野寺専務理事から、配布資料に基づいて予算方針について説明があった。予算作

成上、自助努力(スポンサーを確保する)とアスリートの活力を引き出せるような協会運営ができるような予算としたこと、財政運営上、当初予算案だけにとらわれることなく予算執行状況によって、既存、新規事業を問わず、最大の効果を生む方法を検討していきたい。特定費用準備資金についても、計画的に取り崩していきたい。

令和4年度(以降R4)の予算案については、事業収益245百万円(内、協賛金155百万円)、受取補助金185百万円、総額4.5億円の規模となった。

山岳については、公益の中で共済会業務委託費3000万円を計上、収入については、公益が93.3%、法人が6.7%、支出については、公益が95.9%、法人が4.1%となった。

新規委員会としては、UIAA資格、アイスクライミング委員会を新設しているのでR3年度予算はなしとなっている。また、CCは名称が変更になった。

続いて、事務局の室内改造、フリーアドレス化の費用についての説明を赤尾事務局員が行った。

概算費用としては、1. 初期費用だけでなく、2. 倉庫を外部に持つことの費用増と、今月末までに詳細見積り再提出がされる旨の説明を行った後以下の質疑応答があった。

●質問と回答は以下の通り。

フリーアドレスに伴う購入費用のリース見積りも併せて業者から提供を依頼するために新たに事務室を借りる費用が発生する。これに加えて、事務員の在宅ワークが増えることで、通勤費の削減、その他諸費用の削減が見込めるので、上記外部倉庫費用

が増えても、月100万円強のコスト削減が図れ、初期投資を6-7か月強で回収できる予定。また、外部から来る人の意見も聞きながら、使いやすいオフィスとなるような環境を整備していきたい。スポーツライミングでは、事業運営するうえでの懸念事項は、コロナ感染状況による感染対策や、物資の供給体制、ウクライナの将来状況の影響などがあると考えている。協賛金の確保については、現行予定事業を確実にこなす、レベニューシェアを増やす、新規スポンサーを開拓するの3つの活動をしっかりやっていきたい。申請通りに補助金が出ないときには、支出の見直し等も検討が必要になる。協賛金については800万円のレベニューシェアが確定している。この800万円を、従来の3000万円にしていく努力を継続していく。可能性のあるところは、大手、地方の中小を含め、ダメ元でもよいので取りに行くようにしたい。

さらに以下の質疑応答があった。
●事務所のフリーアドレス化については良い方向と思うし、1.の初期費用はある程度やむを得ないと思うが、2.の月次ランニングコストについては、倉庫単価の高い都心だけでなく、地方の倉庫も視野に入れた検討をしてはどうか。

●アドバイスありがとうございます。今後行う入札の時に、倉庫の場所を都心だけでなく複数提示してもらおう事と、備品の入出荷業務をアウトソースすることで月々の費用減の可能性も含めて、検討したい。

●補足として大会のランクづけは、頭の中では、1.ワールドカップ、BJC 2. LJC と SJC、3. ユースカップなので、その内容を具体的に表現するようにしたい。

●山岳スキーの金額は多いにこしたことはないが、その予算内で強化していきたい。
○採決は以下の様になった。

議案第2号の令和4年度事業方針及び計画承認について採決の結果以下のようになった。

反対ゼロ、棄権ゼロ、賛成21名で承認された。

議案第3号の令和4年度予算方針及び予算承認について以下の2項目に分けて採決予算方針の文面の一部変更と予算について(事務所改造を除く)反対ゼロ、棄権ゼロ、賛成21名で承認された。

事務所の改造については、固定資産扱いだけでなくレンタルも併せて検討するという条件で採決 反対ゼロ、棄権ゼロ、賛成21名で承認された。

議案第4号 JOC女性スポーツ賞について

配布資料に基づいて小野寺専務理事から説明。全体的にレベルがかなり高い方が対象で、候補対象者はなしということでよいかと確認した。

議案第5号(追加)の特定費用準備資金等取扱規定細則について

小野寺専務理事から、令和3年度の財務状況ではキャッシュフロー上赤字となっており支払いが迫っているため、やむなく準備資金の取崩しと、みずほ銀行貸付資金を使用した。なお、今回銀行からの貸付の担保は、補助金等を見込んでいる。

今回の状況を説明しつつ、今後の対応について協議した。

●現PCAシステムで設定可能ならば、キャッシュフローの健全性を監視するために、民間企業でもおこなっているような3か月先くらいまでのキャッシュ入出金見込みを算出できる仕組みを構築してはどうか。そのために、今後の請求見込みなどを各委員会から出してもらおうようなことも必要である。

●ニーズはよく分かりますので、そのためには、各委員会から、この時期にこれだけの金額が必要といった情報(支払い時の金額、納期、支払い条件)をタイムリーに財務に提供いただけるように皆さん方の協力を是非お願いしたいと思います。

●上記のような資金繰り監視のためのシステム、仕組みの構築について賛成です。

●以上の協議から、今回承認する内容として、特定費用準備資金3000万円を令和4年2、3月の支払いに使用したことに対する事後承認について採決を行った。

反対ゼロ、棄権ゼロ、賛成20名。

なお、60周年記念事業資金の用途については次回以降提案、キャッシュフロー監視のための仕組みについては、運用も念頭に入れる必要があるため別途検討することになった。また、"特定費用準備資金等取扱規定細則"については、今回取り下げとなり、後日の理事会で提案していただくことになった。

以降は報告事項

報告第3号 山岳スキー日本選手権反省と結果について

配布資料に基づいて小竹理事より説明があった。笹生理事からの補足説明があり、

正式報告は月報に掲載予定ですが、経費としては、計画したものの予算と実績はほぼ同じでしたが、PCR検査費用だけはプラス費用となった。

報告第4号 SYC/SJCの結果について
別途報告されるので割愛。

報告第5号 令和4年度の役員一部改選予定について(4月議案を予定)

理事が20-25名となっているが、20-30名に変更予定で、何人か立候補予定者がいる。役員選考委員会も立ち上げる予定。

報告第6号 日山協山岳共済会令和4年度予算について

小野寺専務理事から配布資料に基づいて説明があった。具体的には、割引率は46.45%ではあるが、令和4年度で割引率の変更はないこと、現在損害率は39.51%で、40%を超えると優良割引率が15%から10%に下がること、予算上では、収入が5200万円から4881万円となり、委託費用が、3500万円から3000万円に減る状況であることの説明があった。詳細は、各自読んでおくことになった。

報告第7号から第17号まで

内容は各自読んでおくことになった。個々の説明は割愛。

ウクライナの問題について

当理事会の前日に、理事、常務理事からメールでの意見のやりとりがあったが、当理事会においてもいろいろな意見が出された。この日は、協会としての統一した声明や具体的な活動を決めるまでには至らなかった。

寄贈図書

(独)日本スポーツ振興センター	「HPSC NEWS LETTER」2022 VOL.35	広報誌
(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.528	会報
(公社)日本山岳会 山梨支部	「甲斐山岳」第13号	会報
(公財)笹川スポーツ財団	「スポーツ歴史の検証」	寄贈本
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2357号	新聞
兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第658号	会報
東京都オリンピック・パラリンピック準備局	「第32回オリンピック競技大会 東京都報告書」報告書	会報
(独法)日本スポーツ振興センター	「登山研修」VOL.37	会報
長野県山岳遭難防止対策協会	「令和4年 長野県 登山 Safety Book」	会報
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2358号 第2359号	新聞
(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」5月号 No.899	雑誌
(株)山と溪谷社	「山と溪谷」5月号 No.1050	雑誌
(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.386	会報
(公財)大崎企業スポーツ事業研究助成財団	「企業スポーツ 2022Spring Osaki Sports Foundation」第26号	会報
(株)山と溪谷社	「詳しい地図で迷わず歩く 奥武蔵・秩父500km」	寄贈本
日本勤労者山岳連盟	「登山時報」2022年5月 No.567	会報
(公財)埼玉県スポーツ協会	「スポーツ埼玉」Vol.294	会報
神戸大学山岳会	「山と人」22号	書籍
東京野歩路会	「山嶺」Vol.99 No.1106	会報
岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会	「山岳白書」	会報
三峰山岳会 東京都岳連	「岩つばめ」No.367	会報
日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第491号	会報
(一財)全国山の日協議会	「山行手帖」No.748	会報
(公社)日本山岳会	「山」2022年4月号 No.923	会報

「ガンバ!負けるなガバちゃん」

作者:未来



表紙のことば

エベレストを南面から登る場合、クーンブ氷河に懸る、幅1km、高差800mの悪絶なアイス・フォールが難関となる。

第2次世界大戦後、ヒマラヤの北と南では大きな政治情勢の変化が見られた。チベットは中国に併合されて、禁断の地となり、英領インドはインドと東西パキスタンに分離独立し、永らく鎖国を続けてきたネパールが開国に踏み切った。

そのため、英国のエベレスト挑戦は、ネパール側に移った。1951年E. シプトンの率いる偵察隊をエベレストに派遣し、クーンブ氷河のアイス・フォールを突破して、ウェスタン・クウムからの登路を見出した。

(写真撮影 尾形好雄)

編集後記

4月上旬に雪洞訓練で谷川岳の西黒尾根に行ったときは土合駅周辺で2.5mくらいの積雪がありましたがその後気温の高い日が続き、あっという間に雪が融けて4月29,30日の冰雪技術研修会で土合を訪れたときは同じ場所で積雪がありませんでした。

雪が多いと言われた今シーズンですが、自然はちゃんと帳尻を合わせてその季節になるといつものように雪が融けて新緑が芽生えます。今年もコシアブラは取れるかな、ウドはあるかなと山菜は同じ場所に出ます。木や草や沢の水量、残雪の状態などを見て山の状態がいつもと同じかを見比べることも重要です。

(蛭田伸一)

一般社団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第638号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 令和4年5月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」

6月号
発売中

【特集】日本の山⑬ 八ヶ岳

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格968円(税込)



年間購読がおすすりめです

購読割引 送料無料 限定品プレゼント
年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格12冊 年間購読なら12冊 1冊分おトク!

~~10,560円(税込)~~ → **9,680円(税込)**
11,616円(税込) 10,648円(税込)

年間購読特典

岳人コンパクト
マルチランプ

さまざまなシーンで活躍する
超軽量ヘッドランプ。



限定デザイン! 全国2000カ所以上で優待!

岳人カード

全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまな優待が受けられるカードです。



期間限定 キャンペーン 岳人900号記念キャンペーンオリジナルバンダナプレゼント
1947年に創刊した「岳人」は、2022年6月号で900号を迎えます。これを記念して、年間購読者さまにオリジナルバンダナをプレゼントします。【申込期間:6/14(火)まで】



年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



「MAMoL マモル」
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからお申込みいただけます